

問 農業の新しい計画について

農家による農業ではなく、農業法人による農業の占める割合はどのくらいか。

こうして市の農業が確実に変わったことを広く市民に知らせるべきではないか。

また、新たに市の農業計画を作る必要があるのではないか。

答 早期の計画見直しが必要と考えている

4年12月末現在、市全体の農地面積の約1割が農業法人によって耕作されている。

広報しらおかを通して、農業法人の紹介を行うことを検討している。

市農業振興地域整備計画の早期見直しが必要と考えている。



遠藤 誠 議員
(WAKABA)

問 よりそうのは行政ではなく市民

「よりそう」という心地よい言葉が独り歩きしている。よりそうのは行政ではなく、国民、市民ではないのか。

また、白岡市の子育てネットはなぜ上尾市や久喜市のように活発にならないのか。

答 共助の啓発で共助の形をより浸透させる

共助についての啓発を今まで以上にいき、共助の形をより浸透させたい。また、職員が子育て支援活動の現場に足を運ぶなどして、市民サークルが何を求め、どのようなフォローが必要なのかなど、お互いが理解していくことを今後とも続けていく。



問 逆線引きで取り残された当地に道路を

全国的にもまれな逆線引きの篠津押出志部地区は、大山地区や工業団地との接続点で市の発展を支える要と考える。ここ10年で2割近く人口減少したのは道路基盤整備が進まないからである。インフラの基本である道路整備を県市道ともに早期に進めるべきでは。

答 陳情路線の整備を行っていく

生活道路の整備は市民生活の環境向上に寄与する大切な事業であるため、陳情路線については、事業中の改良事業が完了したのち、優先度の高い路線から整備していく。また、県道の整備については、杉戸県土整備事務所へ要望するなど働き掛けていく。



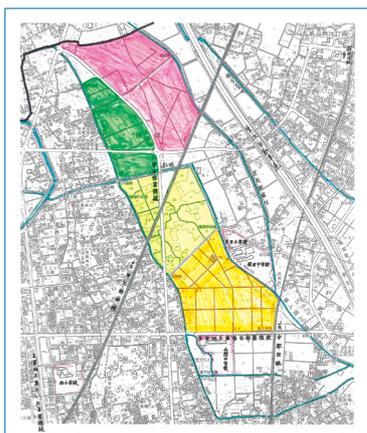
黒須大一郎 議員
(白岡ビジョン)

問 当地の将来は市の根幹市は覚悟を持って

第6次総合振興計画における産業系土地利用検討ゾーンの篠津北東部地区は、市の将来を左右する根幹と考える。白岡中学校北側を含む当地区の土地利用を民間任せの計画でなく、市民生活に寄与するプランを積極的に企業へ提案して官民連携を進めるべきでは。

答 官民連携で知恵を出し合い進めていく

白岡中学校北側区域を含む篠津北東部地区の土地利用は、本市の将来にわたる発展のために重要であると考えられる。地権者や事業者としっかりと連携・協力し、知恵を出し合いながら、「誰もが住み良いまちづくり」の実現に向けて、土地利用の検討を行っていく。



白岡中学校北側区域を含む
篠津北東部地区